

子会社再編で
効率化を図る

Jトラスト

Jトラストは二月十八日の取締役会で、連結子会社アドアーズを完全親会社、キーノート、プレイクを完全子会社とする株式交換を行うことを決め、株式交換契約を締結した。効力発生日は三月十二日。

Jトラストは金融事業を軸に不動産事業、海外事業、アミューズメント事業等の総合金融グループとして事業規模を拡大しているが、左記の通り、不動産事業及びアミューズメント事業を行っているアドアーズ、キーノート、プレイクを企業再編により統合することで、グループ企業経営の効率化を通じて企業価値の拡大を図る。

①経営の効率化及び収益の拡大

【不動産事業】コスト競争に耐えうる規模の拡大

や協力会社の更なる発掘が課題となっている中で、戸建分譲事業を中心に営むキーノートと連携させることで、住・商ともに対応可能となるとも、物件開発力・デザイン力の強化、規模の拡大によるコスト競争力の強化につながり、収益性の向上を見込む。

【アミューズメント事業】アミューズメント業界に精通したノウハウ及び実績を有するアドアーズがプレイクの完全親会社となることで、より機動的、かつ戦略的に運動した事業運営が可能となり、コスト削減等の事業採算性の向上による経営の効率化、さらには店舗集客を牽引する景品開発力の強化が進む。

②協力関係・支配力の強化

KCカードのクレシット事業において、アドアーズのアミューズメント施設運営を通じた直接的なサービス提供で培った

対面取引のノウハウは有益な財産であり、今後のクレシット事業強化及びB2C事業の構築において協力関係の強化は必要不可欠。Jトラストはアドアーズの株式を議決権割合で三四・一％から四三・〇％まで引き上げ、より安定的で強固な関係を築くことができる。今後、ほかのファイナンス部門との連携やシナジー創出の機会をも模索することが可能となり、グループの更なる企業価値の向上に資する